
て の ひ ら 保 育 園

第 三 者 評 価 結 果 報 告 書

令和 6 年度（2024 年度）

機構 02－030 特定非営利活動法人 NPO サービス評価機構

目次

1.理念・方針、期待する職員像.....	1
2.利用者調査.....	2
3.組織マネジメント項目.....	5
4.サービス提供のプロセス項目	14
5.サービスの実施項目.....	20
6.事業者が特に力を入れている取り組み.....	26
7.全体の評価講評.....	27

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1) 身体の発育を促進するために、近くの公園での外遊びを十分させます。 2) 噛む力をつける離乳食・乳児食を提供し、健康な体作りのための食育をします。 3) 自分の気持ちを表現できるように、一人一人との対話を大切にします。 4) 異年齢の集団の中で、小さい子を慈しむ気持ちを育み、大きい子の真似をする機会を多くし、子ども同士で育ち合う環境を大切にします。 5) 保護者との対話や連絡帳アプリで情報交換に努め、保護者と保育園での「共育て」を行います。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・法人としては、信頼できる保育内容で、子育てを支えてくれ、なんでも相談できて、預けて安心な保育園づくりを目指している。そのためには、職員の、チームワークと向上心が欠かせない。また、保護者目線をしっかり認識できることが重要である。 ・採用時には以下の3項目を明示している。 1. 保育に熱意のある方。特に「寄り添い・見守る保育」を志す方 2. チーム保育を心がける方 3. ワーク・ライフ・バランス に関心のある方。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・まずは、社会人として利用者から信頼されることである。そのうえで「保育士」「調理師」「事務」などその職務をより高い品質で提供できるように、努力できる人である。具体的には、目標管理で振り返りを行うほか、職務評価加算制度を導入し、評価点が給与に反映される制度を導入している。「てのひら」の職員であることに、誇りをもって働き続けてもらいたい。

調査対象

調査時点で利用している在園児19名の保護者19世帯を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答の回答をいただいた。

調査方法

園の職員から保護者個々に調査票を渡していただき、返信用封筒を使って郵便ポストに投函して頂いた。回収率を高めるために、ご協力依頼のポスターを園内に掲示してもらった。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

19
19
19
14
73.7

利用者調査全体のコメント

・回答者の属性は次の通りである。調査票記入者：「母」12名(86%)、「父母一緒に」1名(7%)、無回答1名(7%)。
・総合的な感想は「大変満足」12名(86%)、「満足」2名(14%)で、回答者全員が「大変満足」「満足」と返答し、当園の保育に関して非常に高い満足を得ている。
・回答者全員が「はい」と返答し、非常に高い満足を得ていた設問は、問1「心身の発達に役立つ活動」、問2「興味や関心を持った活動」、問4「戸外遊び」、問8「家庭と園との信頼関係」、問10「職員の言葉遣いや態度」、問13「子どもの気持ちの尊重」、問14「プライバシー保護」であった。
・総合的な感想では、「外遊びを多く取り入れてくれています。室内遊びのときもさまざまな工夫があり、いろいろな経験をさせてくれています」「お迎えのときに子どもの様子をわかりやすく話してくれるので楽しみにしています」などのコメントが寄せられた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	14	0	0	0
回答者全員が「はい」と返答し、心身の発達に役立つ活動に関して非常に高い満足を得ている。「小規模園の良さで、年上の子とも遊んだり、いろいろなことを学んだりしています」「保育園に通い始めてから言葉も増え、本人も楽しそうに通っています」「上の年齢の子の行動を見て覚え、いろいろとできることが増えています」「月齢が下の子と過ごし、優しく接することを覚えてきています」などのコメントが寄せられた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	14	0	0	0
回答者全員が「はい」と返答し、子どもが興味や関心を持つ活動に関して非常に高い満足を得ている。「リトミックや劇など、子どもの発達に合わせておこなってくれています」などのコメントが寄せられた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	12	2	0	0
回答者の86%が「はい」と返答し、食事に関して高い満足を得ている。「手作りで栄養バランスのとれた給食なので、とても助かっています」などのコメントが寄せられた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	14	0	0	0
回答者全員が「はい」と返答し、戸外遊びに関して非常に高い満足を得ている。「毎日公園などに散歩に連れていってくれるので、ありがたいです」「天気の良い日には公園に連れていってくれています」などのコメントが寄せられた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	12	0	0	2
回答者の86%が「はい」と返答し、保育時間の変更に関して高い満足を得ている。「とても柔軟に対応してくれるので助かっています」などのコメントが寄せられた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	12	2	0	0
回答者の86%が「はい」と返答し、安全対策に関して高い満足を得ている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	12	1	0	1
回答者の86%が「はい」と返答し、行事日程の設定に関して高い満足を得ている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	14	0	0	0
回答者全員が「はい」と返答し、家庭と保育所との信頼関係に関して非常に高い満足を得ている。「お迎えのときに子どもの様子を詳しく教えてくれるので、安心します」などのコメントが寄せられた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	13	1	0	0
回答者の93%が「はい」と返答し、施設内の清掃、整理整頓に関して非常に高い満足を得ている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	14	0	0	0
回答者全員が「はい」と返答し、職員の接遇・態度に関して非常に高い満足を得ている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	13	1	0	0
回答者の93%が「はい」と返答し、緊急時の対応に関して非常に高い満足を得ている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	9	2	0	3
回答者の65%が「はい」と返答し、「どちらともいえない」14%、非該当21%であった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	14	0	0	0
回答者全員が「はい」と返答し、子どもの気持ちの尊重に関して非常に高い満足を得ている。「自分でやりたいという気持ちが出てきている子どもに合わせて対応してくれているので、うれしいです」などのコメントが寄せられた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	14	0	0	0
回答者全員が「はい」と返答し、子どもの気持ちの尊重に関して非常に高い満足を得ている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	13	1	0	0
回答者の93%が「はい」と返答し、保育内容の説明に関して非常に高い満足を得ている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	12	1	0	1
回答者の86%が「はい」と返答し、利用者の不満や要望への対応に関して高い満足を得ている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	9	1	0	4
回答者の64%が「はい」と返答し、「どちらともいえない」7%、非該当29%であった。				

I 組織マネジメント項目 (カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ☐非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ☐非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ☐非該当
	カテゴリー1の講評	
	ワーク・ライフ・バランスの理念のもとで、保護者の仕事と育児の継続を支援している 当法人の保育所運営理念は「ワーク・ライフ・バランス」であり、父親と母親の仕事と育児の継続を支援することが運営方針である。職員のワーク・ライフ・バランスも大切にしており、家庭の事情があっても、「お互い様」の気持ちで助け合える職場づくりを通して、「てのひら」で働いていることを誇りに思える保育園を目指している。法人の理念は就業規則に明記しているほか、事業計画書の冒頭にも理念に加えて、「運営方針」「保育方針」「保育目標」を記載し、新規採用職員の研修で説明しているほか、年度初めの職員研修において全職員で確認している。 入園説明会や「両親面接」で、園の運営方針や保育の特徴を説明している 内定者を対象にした入園説明会や母親と父親に対する「両親面接」で、園の運営方針や保育の特徴を説明している。重要事項説明書を兼ねた「保育のご案内」の表紙には、法人の保育園運営理念を記載して、子育てと仕事の両立に向けたワーク・ライフ・バランスの大切さを伝えている。「両親面接」では、家庭での子どもの様子などを丁寧に聴き取り、園の保育方針や家庭の育児方針を共有して、「共育て」をしていくことを確認している。入園を検討している保護者を対象にした入園説明会と施設見学会を実施し、保育方針や保育体制、保育の特徴を周知している。 意思決定が必要な事項をリーダー会議で検討し、理事長が最終的に決定をしている 3月の職員会議で、職員全員に事業計画を配布し、今年度の経営状況と次年度の課題を説明している。理事長は2か所の小規模保育園と1か所の東京都認証保育所の運営に責任を持つとともに、「てのひら保育園」の園長としての役割も有している。組織として意思決定が必要な事項は、園長に報告した後に、理事長・園長・主任・事務によるリーダー会議で検討、最終的に理事長が判断して決定している。決定事項は職員会議を通じて報告され、会議録を園内メールで全職員に配信して、欠席者を含め全職員に周知するようにしている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	☐ 非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	☐ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー2の講評		
保護者アンケートを実施し、結果を取りまとめて保護者にフィードバックしている 園独自に保護者を対象に「保育園運営についてのアンケート」を実施しており、災害対策、不審者対策、清掃状況、職員の対応、保育内容などの設問に加えて、項目別に園の取り組みを記載している。アンケートの回答はスマートフォン上のアプリを通じて、忙しい保護者がすきま時間を利用して回答できるように工夫し、90%に近い高い回答率である。保護者のアンケート結果や園の対応・考えを取りまとめて保護者にフィードバックしている。保育行事ごとにも保護者アンケートを実施し、寄せられた意見・感想は、ホームページ上のブログで公開している。 近隣の保育園・幼稚園との連携や子育て関連の連絡会を通じて、情報を収集している 近隣の保育園・幼稚園と連携し、地域の子どもに関わる状況について情報収集している。区の「子育て支援専門部会」や「足立区小規模保育事業者連絡会」に参画し、区の子育てニーズや、区内小規模保育事業所の現状などについて情報収集している。当法人の理事長が「足立区小規模保育園連絡会」の会長職を担っており、区全体の小規模保育園の事業動向について把握できている。そのほか、区や外部団体主催の研修などに職員が参加し、保育や運営に必要な情報を収集しており、得られた情報は保育の実践や園の運営に活かしている。 近隣の保育園・幼稚園との連携や子育て関連の連絡会を通じて、情報を収集している 法人の保育所運営理念は、「職員と利用者のワーク・ライフ・バランスを重視し、地域に求められる保育園を目指す」ことにある。その理念に基づき、中期的経営計画を策定し、将来のビジョンを描いている。事業計画書は、保育所運営理念や前年度の事業実施状況を踏まえた単年度計画であり、前年度の事業を振り返り、次年度の課題を抽出した上で策定している。運営面では、少子化に伴う入園希望者の確保が重要な課題となっている。その対応策として、園の魅力を発信する取り組みや、保育の質を向上させる具体策を講じる計画としている。		

3 経営における社会的責任			カテゴリー3
サブカテゴリー1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。		☐ 非該当
サブカテゴリー2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		☐ 非該当
サブカテゴリー3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		☐ 非該当

カテゴリー3の講評

年度初めの職員会議で、子どもに加えて同僚に対する人権の配慮を確認している

就業規則には服務規律を明記しており、入職時に理事長が説明している。年度初めの職員研修では、チームとして支え合う「お互い様」の精神や「同僚への人権の配慮」について伝えているほか、名前を呼び捨てにしない、後ろから抱き上げる際には声をかけるといった配慮を徹底している。「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用し、子どもを尊重する姿勢や人権擁護の意識を高め、自らの保育を振り返る機会を設けている。虐待・ネグレクトの防止と早期発見に努めており、発見した際には速やかに関係機関に連絡するよう職員に伝えている。

保護者からの意見・要望・苦情の把握に努め、より良い園運営づくりに活かしている

重要事項説明書を兼ねた「保育のご案内」に、保育内容に関する相談・苦情の窓口を記載し、小さなことであっても相談するよう保護者に伝えている。苦情解決制度に対する保護者への周知を高めるために、半年に1回一斉メールで連絡している。より良い保育園を目指すためにも「意見・要望・苦情」は、ありがたい提案のきっかけと園では認識しており、保護者へのアンケートや日頃の職員とのコミュニケーションから保護者の意向を把握している。第三者評価のアンケートでも「不満・要望への対応」の項目に95%以上が「はい」と回答し、高い満足度である。

地域の協議会や連絡会に参画し、子育て支援の環境づくりに協力している

「小中高生保育ボランティア受入規程」を整備し、毎年、夏休みに数名ずつを受け入れている。ボランティアの中には、当保育園を利用していた小学生が、保育ボランティアを希望するケースもある。理事長が地域の小学校の「開かれた学校づくり協議会」や足立区の「パークリノベーション会議」、足立区地域保健福祉推進協議会「子ども支援専門部会」のメンバーとなっており、地域の子育て環境の整備に参画している。また、理事長が「足立区小規模保育事業者連絡会」の会長に就任しており、会としての要望を取りまとめて、足立区や区議会に届けている。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	☐ 非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	☐ 非該当
カテゴリ-4の講評		
職員全員でロールプレイを通じて、事故発生時の具体的な対応方法を確認している 最も高いリスクは園児の死傷事故であるとの認識から、「安全計画」を策定するとともに、研修のテーマにも取り上げて、全職員がロールプレイを通じて事故対応を確認している。事故防止のため、近隣の公園の特徴や注意事項をまとめた「散歩ブック」などさまざまなマニュアルの作成や見直しをおこなっている。消防署の協力により、救急救命の講習を開催しており、AEDの使用法などを確認している。ちょっとした事故でもヒヤリハットを職員ノートに記載して全職員に共有し、リーダー会で要因・対応を考え事故防止につなげている。 月1回、さまざまなケースを想定した避難訓練を実施し、災害時の対応を確認している 「てのひら保育園消防・防災計画」に沿って、毎月、さまざまな想定で避難訓練を実施している。園内の火災発生では調理室からの出火のケースを想定し、安全に子どもたちを誘導するための、避難経路や避難方法を確認している。また、大規模地震の発生を想定した訓練では、保護者の協力を得て、引き渡し訓練を実施している。ハザードマップ上では、浸水は0.5m以内となっているが、想定を超える水害に備えて年1回は水害避難訓練を実施している。「災害ケース別職員行動マニュアル」を作成し、職員が災害時にどう動くかを具体的に示している。 個人情報取り扱いマニュアルに基づき、個人情報の厳格な取り扱いに努めている 「個人情報保護規程」を設けて職員に個人情報の慎重な取り扱いを求めている。「個人情報取り扱いマニュアル」で具体的な対応を明示している。個人情報を含む書類を廃棄する場合は必ずシュレッダー処理をしているほか、園児の情報を含む書類の園外持出し禁止、ブログの園児名はイニシャル表記をする、両親以外のお迎えは事前に写真提示を求めるなどのルールを設定している。園児の写真は、保護者とは同意書・誓約書を通じて確認した上で、連絡帳の添付やブログに掲載している。保育に必要な園児状況票などの書類は施錠可能な事務室戸棚に保管している。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

職員の募集要項に応募要件を明示し、園の方針を十分に理解したうえで採用している

園のホームページやハローワークを通じて、職員を募集しており、募集要項には応募要件として、「保育に熱意のある方。特に寄り添い・見守る保育を志す方」、「ワーク・ライフ・バランスに関心のある方」、「チーム保育を心がける方」を明示している。また、応募前説明時には勤務規律を説明している。実際にホームページなどを通して募集人数の超える応募があり、面接を通じて適正を判断している。入職後は月1回の職員面接で次年度の配属など希望を聴取したうえで、構成メンバーやキャリアアップを考慮して、新年度の職員体制を決定している。

各職員のキャリア形成の希望を踏まえて、育成計画と連動した研修の機会を設けている

目標管理制度を導入しているが、評価項目の洗い出しや職務評価加算の項目決定においては、必ず職員に諮って意見を取り入れている。法人が求める職責・職員像は、「目標管理シート」の自己評価項目として示しており、理事長が面接を通じて、将来のキャリア形成の希望をヒヤリングしている。職員一人ひとりの保育能力・経営能力が向上するように、人材育成計画を策定し、全職員に研修受講の機会を確保している。職員個別研修計画を作成するとともに、研修受講歴を把握し、各職員の希望も踏まえて、育成計画と連動した研修テーマを設定している。

ワーク・ライフ・バランスの理念のもと、誰もが働きやすい職場環境を目指している

法人として「ワーク・ライフ・バランス」を理念として掲げているため、「お互い様」の気持ちで職員同士が助け合える職場風土が醸成され、良いチームワークが図られている。非正規職員や短時間正社員も、正規職員と同様に研修の機会が確保されているほか、雇用形態に関わらず同じ給与表を用いる「同一労働同一賃金」としており、独自の給与形態を進化させて、職員の処遇改善を重ねている。毎月の給与明細を渡す日を面談日として、職員の仕事や家族の状況を把握し、家族状況に合わせた働き方ができるように配慮している。

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 最大の事業目的は、「てのひら保育園・第2てのひら保育園」が地域に欠かせない保育教育施設となることであり、「入園希望者数の増」が課題である。課題解決に向けた前年度の目標として「現在利用している保護者からの信頼や評価を高める必要があり、保護者からの疑問や要望に適切に応えていくこと」、「てのひらの保育内容を、ホームページやブログで広くアピールする」を設定した。上記目標達成に向けた取り組みは以下のとおり。1. 保護者に対して園での子どもの様子や成長についてICTを活用し、写真添付して丁寧に伝えた。2. 連絡帳ばかりでなく、お迎え時に子どもの様子を口頭で伝えた。3. 散歩時は、保育の姿勢が地域の方に見られていることを十分意識し、子どもたちと一緒に挨拶を交わすこととした。4. ホームページに掲載しているブログで、子ども一人ひとりに沿った保育を実施していることを発信した。5. 入園説明会では、わかりやすく映像を交えて、当園の保育の良さを伝えた。当園は2歳迄だが、3歳児以降は姉妹園の東京都認証保育所である「てのひらこども園」に入園できることを伝えた。6. 「一時保育」を再開し、当園の保育体験者を増やして次年度の入園につなげることにした。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 前年度の取り組み結果に関し、在園児の保護者アンケートでは、「連絡帳は子どもの様子がわかり易く書いてあるか」に、「とてもそう思う」が87.5%、「だいたいそう思う」が12.5%、「職員の説明は丁寧にわかり易いか」に、「とてもそう思う」が81.3%、「だいたいそう思う」が18.8%であり、保護者からの信頼や評価を高めることができている。アンケートを通じた要望や意見は、正すべき事項はすぐに改善し、意見として受け止める場合は丁寧に説明し、報告書として保護者に配布している。また、公園で遊んでいる親子に声掛けをし、遊具を貸すなど地域の方々との交流も進めている。ホームページを園で修正追記ができるように改修し、掲載項目を多くして保育内容の見える化を図った。入園説明会でのアンケートでは、全員が「参加して良かった」といった結果であった。「資料がわかりやすかった」「理事長の思いを感じることができた」との意見もあった。「一時保育」に関しては、職員体制が厳しく、再開には至らなかった。一方で、今年度から「体験保育」に取り組み、1日2組の親子を受け入れ、3日間で6組を受け入れるなど、新たな入園希望者につなげる取り組みを進めている。	

評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 当法人は、法人名のとおり職員のワーク・ライフ・バランスを応援しており、職員の人財確保のための処遇改善が課題であることから、前年度の目標に、「職員の処遇を改善し、働きやすく楽しい保育ができる事業所とすることで、保育内容を更に質の高いものとしていく」を設定した。前年度の目標達成に向けた取り組みは以下のとおり。1.「お互い様」の気持ちで、個人や家庭状況での休暇取得をみんなで応援する雰囲気づくりに努めた。2. 補助金を活用して、2024年3月21付けで賃金表を見直して処遇改善を図った。3. 採用活動を継続して実施した。4. 保育行事のための土曜日の休日出勤はあるが、基本土日の週休2日制としており、定時退勤が当たり前の風土となるように努めた。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 前年度の取り組み結果は以下のとおり。1.「てのひら保育園」の前年度の有給取得率は67%であった。2. 賃金水準は、全職員平均で4.3%の改善が図れた。賃金水準の向上には補助金の確保が前提となるが、補助金確保のためにも在園児数を増やし、定数の空きをなくす取り組みを継続していく方針である。3. 採用活動の成果によって、3名の募集に7名の応募があり、予定より多めの職員が確保できた。働きやすく楽しい保育ができる事業所とするため、職員を加配することができた。4. 年度末の保護者会を、「てのひら保育園」と「第2のひら保育園」を時間差で開催し、各園の子連れ参加の保育体制がとれた。保護者も理解してくれて、休日出勤を増やさなくても、参加者が安心して参加できる休日行事が実施できた。保護者参加率も高かった。また、保育内容を更に質の高いものとするには、個人の研修機会を多くするばかりでなく、職員全員が同じ情報を得ていく研修も重要との考えである。そのために同じWeb研修をすきま時間に受講してもらい、知識の共有化を図っていくこととしている。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
評価項目1 利用希望者に対してサービスの情報を提供している 評点 (〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当
サブカテゴリ1の講評		
園のホームページで利用希望者の知りたい情報をわかりやすく提供している		
園のホームページには、園の概要や一年の行事、保育年齢定数、平面図、お散歩マップ、保育方針、保育時間と保育料、教育プログラム、施設平面図、アクセスなどのバナーが用意され、入園や見学の希望者の知りたい情報をわかりやすく提供している。園の概要には、法人設立、開設月日、入所定員、小規模保育事業A型の保育園であること、保育時間、施設面積、職員、嘱託医などの詳細が掲載されている。その他、区発行の冊子「足立子育てハンドブック」にも住所、電話番号、0歳児保育の実施、開所時間などが掲載されている。		
行政や地域の保育園・幼稚園などに情報提供し連携している		
区役所の担当課には毎月、職員数や園児数などの月報や怪我などで受診した場合には事故簿、年度末には次年度に向けた入所定数などの書類を提出している。近隣の保育園・幼稚園には法人が年2回発行している「ラボ・ニュース」を配付している。区主催の小規模保育室連絡会が年3回開催されるので、園長が出席して行政からの情報を得て情報交換をしている。当園は地域の区立保育園の連携施設になっており、園児が区立園の園庭で遊んだりして交流している。今年度から近くのつばめ幼稚園とも連携施設となり、2歳児が幼稚園の行事に参加している。		
見学希望者には11月の入園説明会を案内し、個別対応もしている		
見学希望者へは個別に対応しているが、ホームページの見学会・入園案内に、11月の第2土曜日に入園説明会を実施することを掲載しその時参加できる人には、「問い合わせ」から申し込んでもらっている。入園説明会は、当園と法人系列の隣接した第2てのひら保育園合同で、第2てのひら保育園の保育室を会場にしておこない、園概要や法人の運営理念、保育方針、持ち物、体験保育の実施などを伝えている。39組の申し込みがあり参加は32組であった。個別の見学依頼が10組程あり、見学や入園説明会参加者には入園案内を配付している。		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
評価項目1 サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている 評点 (○○○)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点 (○○○)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評		
入園説明会を開催して、園概要や基本的ルールを説明し、契約を交わしている 4月の入園内定者には、入園までの手続き・日程の案内文書と提出書類などを送付し、事前に提出してもらったうえで、2月に入園説明会を実施している。入園説明会は系列こども園のホールで系列保育園と合同で実施し「てのひら保育園、第2てのひら保育園保育のご案内（入園契約の重要事項説明書）」や入園契約書を基に園の運営方針や保育の特徴、保育料の支払い、保護者会や行事などのご協力をいただきたいこと、持ち物などを説明している。同日午後、両親と内定児とで来園してもらい、30分ほどの両親面接を実施して契約書に捺印をしてもらっている。		
入園開始直後は、子どものストレス軽減のために慣れるまでの保育を実施している 3月下旬には、入園内定者を対象に、親子で一緒に保育園で9時30分～11時30分を過ごしてもらい親子保育の日を設けている。入園開始後は子どものストレス軽減のために、目安として初日から3日間は9時～12時、4日目～7日目は9時～15時、8日目からは通常の保育時間にすることを伝え、子どもの様子により個別に対応する旨を説明している。保護者がゆっくり慣れることを希望される場合は応じている。担当制を基本にしてチーム保育をしながら子どもとの信頼関係を築き、迎えの保護者が安心できるように、子どもの様子を丁寧に伝えている。		
卒園児に継続した支援ができるよう「園児発達状況票」を作成して届けている 2歳児までの保育園であり、卒園した後は次の保育園や幼稚園に入園することになるため、継続した支援ができるように園独自に作成し保護者も了承している「園児発達状況票」を次の入所保育園などに届けている。近隣の保育園や幼稚園の場合には、届ける際に子どもの発達状況について話をし引き継いでいる。11月に2歳児を対象に個人面談を実施し、育児環境が変わることへの不安な方には相談に応じている。配慮が必要な子どもへの対応は子ども家庭支援センターとも連携しているので、次に入園する保育園での継続した支援をお願いしている。		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点（〇〇〇）		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	☐ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点（〇〇〇〇〇）		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	☐ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点（〇〇）		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	☐ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点（〇〇）		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有している	☐ 非該当

サブカテゴリー3の講評

子どもの心身や生活状況を把握して、保育日誌や発達経過記録などに記載し把握している

入園時に提出してもらった「園児状況票」で、家族状況や主な送迎者、出生時・授乳の状況、発育状況、寝付く時の癖、好きな遊び、食事（現在の食事状況、好きな食べ物、嫌いな食べ物）、予防接種歴、既往歴、保育園で配慮して欲しいこと、かかりつけ医などを把握し、食物アレルギーなどは個別に聴き取りをしている。入園後は家庭での食事や睡眠、排せつなどの生活と子どもの様子を保育ICTシステムの連絡帳で伝えてもらい保育をしている。園での子どもの様子は保育日誌に記録し、発達経過記録に0歳児は毎月、1・2歳児は2か月ごとに記載している。

子どもの様子を振り返り、個別の月間保育計画を作成し、ねらいを保護者に伝えている

全体的な計画を基に養護と教育の各領域を踏まえた年間指導計画を作成し、それらを基に個別の月間保育計画を作成している。個別保育計画は発育・健康、人間関係・環境・言語・表現、食事・排せつなどの項目について、前月の評価と子どもの様子を記入し、項目ごとの今月のねらいを作成している。そして、一人ひとりの今月のねらいを連絡帳に記録して保護者に伝え、一緒に取り組んでもらっている。

職員会議やリーダー会議を開催し、報告や議事録の配信などで情報共有を図っている

月1回の職員会議は13時～14時、昼寝担当の職員以外が参加して、リーダー会議の報告や子どもの様子を話し合っ保育計画検討をしている。参加者は聴き取ったことをノートに記録して午睡担当者に知らせている。リーダー会には3園の園長・主任が参加している。休暇中の職員や会議に参加できなかった職員向けには、リーダー会議・職員会議の議事録を職員全員に配信して情報の共有をしている。その他、話し合うテーマがあったり、情報共有が必要な時には、短時間の昼打ち合わせを実施している。

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点 (〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点 (〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当
サブカテゴリー5の講評		
子どものプライバシー保護を徹底している 個人情報の取り扱いは「てのひら保育園・第2てのひら保育園保育のご案内（入園契約の重要事項説明書）」や契約書第11条秘密の保持で説明している。「お子さんとご家族の写真」の取り扱い文書では、ホームページから写真をダウンロードをしないことなどの誓約書を得て、子どもの写真の撮影や写真のブログ掲載、園のパンフレットなどへの掲載などの可否について回答を得、対応している。また、子どもの羞恥心への対応として、水遊びはパンツとシャツを着用し、園の前で遮光カーテンなどで目隠ししている。		
子どもの人権の尊重について学び、保育をしている 6月に実施している法人内の保育施設全職員対象の研修会で「教育・保育の質向上のための取り組み」と題して、人権の尊重と不適切な保育等の行為について学んでいる。子どもに対して「威圧的、命令的、否定的な言葉遣いをしていないか」、「支配的なかわり方をしていないか」、「眠い子どもに無理に食べさせてはいないか」、「嫌いな物を無理強いして食べさせてはいないか」などを振り返ると共に、「子どもの名前呼び捨てはしない」、「丁寧な言葉遣いで保育をする」ことなどを確認している。		
虐待の早期発見や防止のために、日頃から子どもの様子に注意を払っている 保育者の不適切な保育については、全職員研修で学んでいる。家庭における子どもの虐待の早期発見や防止については、区発行の「子どもの虐待防止マニュアル」の読み合わせをおこなっている。職員は、日頃から子どもの様子や身体の傷やあざなどに注意を払い、原因がわからない傷やあざなどがある場合には、保護者に確認をし、少しでも不審に思われることがあれば、記録をとり園長に報告することになっている。園長は子ども家庭支援センターに相談し、関係機関と連携して適切な対応をすることになっている。		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点 (○○○)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書（基準書、手順書、マニュアル）等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点 (○○)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評		
法人内共通の「安全計画マニュアル」などのマニュアルを整備している 法人内共通の「安全計画マニュアル」には、事故防止チェックリスト、洪水避難訓練、不審者対応、AED対応、食事介助と事故防止、水遊び安全配慮、食物アレルギー対応、お散歩安全配慮などのさまざまなマニュアルが綴じてあり、「衛生管理マニュアル」や「給食衛生管理、食中毒発生時対応マニュアル」、「個人情報取り扱いマニュアル」なども整備している。これらマニュアル類はてのひら保育園事務室と保育室の棚に保管し、必要な時にいつでも確認することができるようにしている。		
マニュアル類は、全保育者参加研修で確認し、必要に応じて見直しをおこなっている マニュアル類は、例年6月に実施している法人の全保育者参加研修で確認し、必要なことは見直しをしている。中でも、「お散歩安全配慮マニュアル」は4月、「水遊び安全配慮マニュアル」は6月に、保育活動に合わせて読み合わせをし、見直しが必要な点がある時には見直している。その他、園の行事や防災訓練などは実施後に反省をおこない、改善点を次年度に活かしている。保護者参加行事については保護者の感想や意見をもらい、参考にしている。		
保護者や職員からの意見を検討して、より良い保育の提供に活かしている 職員や保護者から寄せられた意見をより良い保育の提供に活かしている。運動会は前年まで系列園3園合同で実施していたが、保護者観覧席が確保できないことから、3園を別にという意見が出たため検討し、2部制にして1部に2園、2部に1園を同日に時間をずらして実施した。保護者からは観覧席が取れてよかったとの声が寄せられた。コロナ禍では保育室に保護者の立ち入りをしていなかったことから衣類のストックの状況は個別写真を連絡帳に添付して知らせていたが、本年春からは保護者が保育室内に入り、自分で確認してもらうように変更している。		

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

サブカテゴリー4	
1	サービスの実施項目 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点（○○○○○）	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ○ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ○ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ○ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ○ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつ等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ○ 非該当
評価項目1の講評	
「園児状況票」や個別月間保育計画などで子どもの全体的な姿を共有し保育をしている	
入園時に提出してもらった「園児状況票」で入園までの生活や心身の状況を把握し、職員間で共有して保育をしている。日々の子どもの様子は個別保育日誌（連絡帳の園での子どもの様子と同じ）に記録し、個別月間保育計画は毎月職員会議を開いて子どもの様子を話し合い、月のねらいを決めて作成している。担当制をとっているが、全体でチームとして保育をしているので、常に全園児に関する情報を職員が共有し、個別月間保育計画をパソコンで見ることができるようにしている。	
子ども同士の育ち合いを大事にして、異年齢保育をしている	
0～2歳児19名の異年齢保育を基本にして、子ども同士の育ち合いを大切にしている。低月齢の0歳児の場合は、その子どもの生活リズムに合わせて眠りたい時には午前睡も保障し、這い這いする子どもにはその場所を確保して別に保育しているが、できることは保育士がつき、抱いたり見守ったりして一緒にしている。2歳児の手遊びを1歳児が真似て遊び、0歳児が見て真似てやってみようとするなどの、影響を受けている姿が見られる。2歳児には自分より小さい子どものお世話をしたい気持ちやいたわりの気持ちなどが見られる。	
子ども同士のトラブルには状況をよく見て子どもの気持ちに共感して対応している	
かみつやひっかきなどの子ども同士のトラブルが生じた場合は、双方の子どもの気持ちに共感しながらも「噛んだらいけないことを真顔で知らせる」ようにしている。保育士にはトラブルには、その場だけ見て対応してはいけないことを伝えている。園内のビデオカメラで子どもの様子を見ることで、「～したかったんだ」などとわかることがある。噛みつかれた方の子どもの保護者には、トラブルの状況を伝えて、噛みつきを防げなかったことを謝罪している。同じ子どもが噛みつきを繰り返すような場合には、噛んだ子の保護者にも伝えて対応を相談している。	

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点 (〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当

評価項目2の講評

登園時には子どもの健康や家庭での様子を聴いて、受け入れている

登園時には挨拶を交わして、子どもの顔色や機嫌などの健康を観察し、家庭での様子を聴いて受けている。保育ICTシステムの連絡帳は、登園するまでに発信してもらっているが、保育に関係ある子どもの健康面や怪我などは、直接口頭でも伝えてもらっている。前日に休んでいたたり、園で怪我をした時などは、家庭での様子を詳しく聴いて受けている。

一人ひとりの発達に合せて、家庭と共有しながら、生活習慣が身につくよう援助している

離乳食は一人ひとりの子どもの食べ具合により進めている。子どもの食べる意欲や楽しく食べることを大事にして、少しずつスプーンを使って食べたりコップで飲んだりできるように援助している。子どもの食事の様子は保護者に伝えて共有している。排せつの自立に向けては、おしっこが出たことを言葉やしぐさで教えてくれるようになり、排尿の間隔が長くなり、トイレに興味を持ち便器に座り排尿することができるようになると、パンツを用意してもらっている。排せつの自立に向けた取り組みについては、保護者会で個人差があることを含めて伝えている。

子どもの様子は連絡帳に写真を添付して伝え、迎え時には口頭でも伝えている

連絡帳は担任保育士が入力し、16時30分に園長がチェックをしてから送信している。それぞれの家庭に子どもの遊んでいる写真を2～3枚送付している。迎えの保護者一人ひとりに、口頭でも体調やエピソードなどを伝えている。園で怪我をして受診が必要と判断した時（特に首から上の怪我は受診することになっている）には、保護者に怪我の状況を伝えて了解を得たうえで受診し、受診には園長が同行している。保護者の迎え時には、怪我の状況を再度説明し、医師の指示を伝え、怪我を防止できなかったことを謝罪している。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点 (〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉（発声や喃語を含む）や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	☐ 非該当

評価項目3の講評

低い玩具棚で食事や遊びの場所を仕切り、好きな玩具でじっくり遊べる環境にしている

ワンフロアの保育室を低い玩具棚で3スペースに分け、中央は食事や机上遊びのスペース、入口奥は0歳児、手前は遊びのスペースにし、子どもの成長により柔軟に工夫して使っている。玩具棚には年齢発達に合わせた玩具類や絵本を用意して、好きな玩具で安全にじっくり遊べるようにしている。なめる玩具など使用した玩具は洗浄や消毒をして入れ替えている。子どもの興味関心や季節などに合わせても入れ替えている。また、「とんとんひげじいさん」や「りんごコロコロ」などの手遊びをしたり、「一本橋」などのわらべうたも1対1で遊んでいる。

子どもとの応答的な関わりを大事にし、言葉のやり取りを楽しめるようにしている

子どもの発達に合せて、やさしく語りかけたり、歌いかけたりすることを大事にし、子どもの要求を先取りしないようにしている。子どもの興味関心のある絵本を自分で手に取れるようにし、絵本や紙芝居などをよく読んであげている。子どもが絵本を差し出した時には「絵本、読んで欲しいの」と子どもの思いを言葉にし「読もうね」と膝に抱いてゆっくりと読んでいる。子どもの言葉が語尾だけでも、相槌を打ち「電車だね」などと、言葉で表現している。子どもたちの好きな絵本「おおかみと七ひきのこやぎ」などを題材に劇ごっこをしたりして遊んでいる。

毎日のように散歩に出かけて戸外で身体を動かし、自然に触れて遊んでいる

戸外遊びに出かけられる日には、ほぼ毎日、0歳児はバギーやお散歩カーで時間を短めに、1・2歳児は散歩カーや歩きで公園などに出かけて戸外遊びをしている。安全に遊べる公園では好きなところを歩き回って探索したり、ダンゴムシ探し、ボール遊び、滑り台などの固定遊具遊びなどを行っている。たんぼやシロツメクサなどを摘んで「ママにお土産にする」などと言っている子どももいる。秋にはどんぐり拾いなどをするので手作りのバックを持って出かけている。チョウチョやバッタ、ミミズなどの生き物に触れ、蟬の抜け殻集めをしたりして遊んでいる。

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点 (○○○)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	☐ 非該当

評価項目4の講評

鯉のぼりなど季節の行事に合わせた物を作り、歌を歌い行事の雰囲気を楽しんでいる

季節の行事を保育に取り入れて、行事に関連した歌を歌ったり物を作って飾ったりして、雰囲気を味わっている。子どもの日を前に、子どもたちの手形や足型などを模様にして、鯉のぼり作りをして飾っている。七夕には笹飾りを作って笹に飾り付けて持ち帰ってもらっている。正月には福笑い、獅子舞などのお正月遊びをしている。その他、節分やひな祭り、クリスマスなどの行事も実施している。

みんなで一日を楽しく過ごすをねらいに、1・2歳児の運動会を開催している

運動会は隣接している公立小学校の体育館を借りて実施している。当保育園と系列の第2てのひら保育園の1・2歳児の合同運動会にして、みんなで楽しく過ごすことをねらいにしている。子どもの種目はかけっこ運動遊び、みんなでダンス、親子競技にしている。初めは保護者と子どもは別の席にし、みんなで一緒に踊ってから一緒にいてもらっている。パパ対象の種目は職員が背負った籠に玉入れをするという競技、園児の年上のきょうだいの種目はひたすら走る競技、親子競技は一緒に悪者をやっつけるなど、参加者みんなで楽しめる一日にしている。

保護者参加の行事などにはお知らせを発行して、理解や協力をお願いしている

年間行事予定表を年度初めに配布して予定してもらっている。保護者参加の運動会、保護者会などの多くは参加しやすいように、土曜日午前中に開催している。運動会に向けて取り組んでいる運動遊びやダンスなどの様子を、連絡帳で伝えて、保護者も楽しみにしてもらえるようにしている。運動会には、プログラムを発行して詳細を知らせ、保護者席から子どもたちの様子がよく見えるように配慮している。大根掘りなど子どもだけのイベントの場合にも、準備する物やお願いなどがある場合には、お知らせを発行して詳細を伝えている。

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点 (○○)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当

評価項目5の講評

早番と遅番の保育は少人数のため、第2てのひら保育園との合同保育をしている

7時30分～8時30分の早番の保育時間と、17時45分～18時30分の遅番の保育時間は、少人数であることから当園と隣接しつながっている第2てのひら保育園の利用児も一緒に、当園の保育室で、両方の保育園の保育士による合同保育をしている。

好きなおもちゃで遊んだり、保育士と一緒に遊んだりして楽しく過ごせるようにしている

早番の時間から登園している子どもが眠い様子の時には午前睡も保障している。早番や遅番の保育時間は人数が少ないので、第2てのひら保育園の利用児と共に、自分の好きなおもちゃを使ったり、保育士と一緒に遊んだり、膝に抱かれて本を読んでもらったりしながら、楽しく過ごせるよう配慮している。夕方の時間は寂しくないよう、仕切り棚などで作った狭い空間で落ち着いて遊べるようにしている。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点 (〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○ 非該当

評価項目6の講評

年齢や発達に合せた椅子やテーブルに安定して座り、落ち着いて楽しく食事をしている

保育室を玩具棚などで3つに分けて、真ん中部分を食事スペースにしている。子どもの年齢や発達に合わせた椅子を使用して安定して座り、落ち着いて保育士や友だちと一緒に楽しく食事をしている。0歳児で離乳食の頃はバンボに安定して座らせ、テーブルを使っている。10か月頃には背もたれと脇ありの椅子を使い、1歳児からは背もたれ付きの椅子を使っている。食事スペースの関係で一つのテーブルに3人掛けにして食事介助をすることもあったが、現在は2対1の食事介助をしている。保護者には、給食の写真を連絡帳に添付して知らせている。

区立保育園の献立を使用して、園で手作りの給食を提供している

給食は、隣接している第2区のひら保育園の調理室で調理し、出来立てを提供している。区立保育園の2週間サイクルの共通献立を使用し、乳幼児期に必要な栄養のバランスを考え、1日の摂取量の50%を摂れることを目標にしている。食材はできるだけ国産で、無着色無添加の新鮮な物にし、出汁は鰹節や昆布から取り素材のおいしさを活かした薄味の給食にしている。カレーやドレッシングなども手作りにしている。足立区では「そうだ、野菜を食べよう」の考え方を推奨して、乳幼児献立では毎月19日は野菜の日、毎月8日はカムカムデーになっている。

保護者には給食参観や試食を、2歳児はそら豆などのさやむき・皮むき体験をしている

6月には給食参観を実施して、隣室から子どもたちの食事の様子を見てもらっている。その時に保護者にも試食してもらい出汁を効かせた薄味の給食にしていることや、果物や10時に飲んでいる牛乳以外の食材は必ず火を通して提供すること、サイクル献立であることから初めて出た料理などは子どもの食べ具合を見て、2回目には切り方や味付けを工夫をしていることなどを調理師が説明している。2歳児はそら豆のさやむきやトウモロコシの皮むき体験をし、地域の農家さんの厚意で大根掘り体験をさせてもらっている。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点 (〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○ 非該当

評価項目7の講評

手洗いなどの生活習慣を繰り返しながらきれいにする心の心地よさを知らせている

0・1・2歳児であり、手が汚れていた時や食事の前には「キレイにしようね」とおしぼりなどで拭いたり、水道で洗ったりして、手がきれいになった心地よさを知らせている。食事前には0・1歳児は手の消毒をしている。鼻水が出れば拭いてきれいにしてやり、心地よくなったことを言葉でも知らせている。繰り返す中で子どもが自分でも鼻水を拭こうとする姿も見られている。歌や手遊びなどで、例えば、こんこんこんくしゃんの歌を歌ったりして、くしゃみをする時には口に手を添えることなども知らせている。

園児の健康管理として嘱託医による健康診断を年2回実施している

園児の健康管理として、年2回春と秋には嘱託医による健康診断を園で実施し、その日に欠席の場合には園医のクリニックで受けてもらっている。園医には園児の健康に関する相談にも応じてもらっている。園では、月1回身長と体重を測定し、連絡帳で保護者に知らせている。子どもの健康状態は登園前に連絡帳で発信してもらうが、体調が悪い時や小さな怪我をした時には、登園時にも口頭で伝えてもらっている。園における薬の預かりはしていないが特別な場合は相談してもらっている。

子どもの健康維持に向けた情報は一斉メールなどで配信している

4月には子ども家庭庁からベランダからの転落事故防止についての注意喚起のパンフレットが届き、10月にはマイコプラズマ、12月にはインフルエンザへの注意などが届いたことから、保護者に一斉メールで配信して注意を喚起している。日頃から、看護師が感染症や子どもの健康管理、指導をおこない、冬の時期は「発熱時の対応」の文書を配付して、コロナでもインフルエンザでもないことを検査し確認してから登園して下さいなどと伝えている。園における昼寝の際には、乳幼児突然死症候群の予防として、午睡チェックを実施している。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点 (〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当

評価項目8の講評

保護者支援は責務と考え、保育園でできることは配慮し支援している

当園は保護者のワーク・ライフ・バランスの推進を支援しているので、保護者支援は責務と考えて一番大事にしている。保護者から連絡帳や口頭で相談を受けた時には、保育園でできることは配慮して支援している。母親も父親も、一緒に子育てしましょうと呼びかけ、園と保護者で子どもの様子や成長、体調などを共有する「共育て」をしている。保育ICTシステムを導入して、連絡帳や資料室などで情報の共有をして保護者の利便性を高めている。

ママ会やパパ会も含めて、保護者会を年3回実施している

保護者会としてママ会（ママだけの保護者会）とパパ会（パパだけの保護者会）を実施している。ママ会は5月の土曜日に10時30分～12時で実施し、内容は園での子どもの様子のビデオ鑑賞と自己紹介、保護者懇談にしている。「パパ会」は9月の土曜日に、園での水遊びの動画鑑賞、パパカUP講座「パートナーと仲良く子育て」などを実施している。2月には保護者会を実施し、子どもの成長や今後の進級や卒園に向けた話をしたり、保護者同士の交流の機会にしている。

給食参観や個人面談を実施して、子どもの様子を園と家庭とで共有している

6月には、隣室から子どもたちが昼食を食べている様子をそっと見てもらう給食参観を実施している。参加できない人のために、ユーチューブでも限定公開をしている。年1回の個人面談は、2歳児は卒園して他園に入園することになるため、区がおこなっている先行利用調整があることから8月に実施し、0・1歳児は9月に実施して、園での子どもの様子を伝え、家庭での様子を聴き、子どもの姿を共有している。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点 (〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当

評価項目9の講評

公園に散歩に出かけ地域の人と挨拶したり、農家さんに大根掘りをさせてもらっている

散歩に出られる日には毎日のように公園などに散歩に行き、出会う地域の方々に挨拶をしている。地域の中では、うさぎや金魚を飼っている方が散歩時の子どもたちが見れるようにと、出しておいてくれたりしている。桜のきれいなお寺では花を見せてもらっている。地域の連携幼稚園の餅つき会に相撲部屋の力士さんが来てもちつきをされるので、お誘いしてもらい2歳児が参加している。地域の農家の協力を得て、子どもたちが大根掘りを体験させてもらい、家庭に持ち帰った大根は料理して家族で食べてもらっている。

園の運動会には保護者に加え、園児のきょうだいや祖父母、親戚などが参加している

運動会は1・2歳児の運動会として、当園と系列の第2でのひら保育園合同で、隣接している小学校の体育館を使わせてもらい実施している。両園とも14名ずつで園児は28名、それに保護者と祖父母や親戚などを合わせて参加者250名ほどで実施している。コロナ禍前には卒園式や園の行事などに地域の方々をご招待していたが、まだ再開せず、検討中である。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	園の保育や子どもの様子を伝え、保護者の「ワーク・ライフ・バランス」を支援している	
内容①	法人の保育所運営理念の中に「父親、母親の『ワーク・ライフ・バランス』を職員皆で応援します。保育園と一緒に子どもを『共育で』をしましょう」と掲げている。入園時には両親面接をおこない、保護者会としてママ会やパパ会を実施して、ママ同士、パパ同士が子育てについて話し交流する機会を作っている。入所前の3月には親子保育、6月には給食参観をして園の保育や子どもの様子を見てもらっている。そして、日々の子どもの様子は毎日連絡帳に具体的に書き、2～3枚の写真を添えて送信し、迎え時にも出来事や体調などを口頭で伝えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	異年齢保育を基本にして、子ども同士の育ち合いを大事にしている	
内容②	0～2歳児の異年齢保育をし、子ども同士の育ち合いを大事にしている。0歳児には生活リズムに合わせた睡眠や這い這い・つかまり立ちする場所の保障など、0歳児だけで過ごせる場所を確保し、食事も個々の発達に応じた離乳食を提供している。一緒に遊べるような時には、保育士がついて抱いたり見守ったりして、1・2歳児と一緒に過ごしている。0・1歳児は2歳児の遊びをじっと見て、真似てやってみようとする姿が見られ、2歳児は赤ちゃんの世話している保育士の様子を見て、自分も赤ちゃんの頭や頬を撫でたり、お世話をしようとする姿が見られる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル③	職員別の「個別研修票」を作成し、全職員が計画的に受講できるように工夫している	
内容③	職員の人材育成に関して、前年度までは一覧表形式で全職員の個別研修計画を作成していたが、今年度は新たに職員別に「個別研修票」を作成して、研修個別課題を設定して必要な研修を計画的に受講できるようにしている。「個別研修票」には、受講を推奨する研修をリストアップし、優先順位を付して早めの受講を推奨している。職員それぞれのバックグラウンドが違うため、標準化を図る必要があるため、安全や保護者対応を共通のテーマとして受講を促している。研修はEラーニングを活用して、すきま時間に気軽に研修が受講できるように工夫している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	少人数で保育士の目が行き届き、家庭的で一人ひとりに応じたきめ細かな保育をしている
	内容	0歳児が5名1歳児7名、2歳児7名の小規模保育園である。保育室は子どもたちが落ち着いて過ごせるように、低い玩具棚を仕切りにして、0歳児の個別保育を保障したり、みんなで食事をしたり一緒に遊んだりできるようにしている。担当制をとりながらも全園児をチームとして保育しているため、家庭的雰囲気保育者の目も行き届き、一人ひとりの子どもの発達に応じたきめ細やかな保育をしている。利用者調査では、総合的な満足度は「大変満足」86%・「満足」14%と回答者全員が満足との返答で、大変高い評価を得ている。
2	タイトル	ほぼ毎日のように散歩に出かけて戸外で身体を動かし、自然に触れて遊んでいる
	内容	園庭がないため、戸外遊びができる日には、ほぼ毎日のように公園に散歩に出かけて戸外で身体を動かし自然に触れて遊んでいる。園周辺は区立や都立の公園が多く、歩き回って探索、待て待て鬼ごっこ、ボール遊び、ダンゴムシ探し、滑り台などの低年齢用固定遊具で遊んだりしている。春にはたんぽぽやシロツメクサなどの草花を摘み、秋には落ち葉やどんぐり拾いをしている。ダンゴムシやミミズなどにも触れて遊んでいる。気分転換や外気浴を兼ねた午後からの散歩には、園周辺に出かけて、地域の方のお家で金魚を見せてもらったりしている。
3	タイトル	希望者を対象にして、保育の中に外部の講師による教育プログラム「英語で遊ぼう」と「リトミック」を取り入れている
	内容	保育の中に、教育プログラムとして1・2歳児を対象に、外部の専門講師による「英語で遊ぼう」を週1回(15分)、月3回、年間33回、「リトミック」を月2回(1回25分)、年間21回取り入れている。英語遊びとリトミックは希望者が対象である。英語遊びは1・2歳児の言葉をよく吸収する時期に正しい英語の発音を耳にし、楽しく歌ったり踊ったりして英語に慣れ、リトミックは音楽や音に触れて五感に刺激を与え、リズムに合わせて楽しく身体を動かして身体の発達を育むことをねらいとして取り入れている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	これまで以上に、子どもが自分の好きな玩具でじっくり遊べるような室内環境のさらなる工夫を期待したい
	内容	保育室は低い玩具棚を利用して3つに分け、子どもが落ち着いて食事や遊びができるようにしている。玩具棚には、子どもの好きな、興味関心のある玩具類を子どもが使いやすいように分類し、自分の好きな玩具を使って自由に遊べるようにしている。パズルやお絵かきなどの机上遊びは、食事のスペースを使っている。今後は、これまで以上に子どもが自分の好きな玩具でじっくりと遊べるよう、遊びごとのコーナーのような場所をつくるなど、室内環境のさらなる工夫を期待したい。
2	タイトル	今後、子どもたちが地域のさまざまな年齢の方々と触れ合う経験を増やす取り組みを期待する
	内容	設立して12年が経過し、公園などに散歩に出かけて地域の人々とも積極的に挨拶を交わしているため、地域の保育施設として知ってもらえるようになり、地域の農家のご厚意で子どもたちに大根掘り体験をさせてもらっている。コロナ禍前は地域の高齢者施設との交流をしていたが、まだ、再開できていない状況である。感染症の収束後には、子どもたちが地域のさまざまな年齢の方々と触れ合う経験を増やす取り組みを期待する。
3	タイトル	管理者層と職員で園の将来像について話し合う機会を設けて、これまで以上に職員の経営への参画意識を高め、一体感のある運営を期待したい
	内容	管理者層は保育士の負担を軽減する方向で、法人3園の園長主任で構成するリーダー会で、運営方針などを検討して各園の職員会議で取り組みを求めている。一方で、職員アンケートでは上の人に意見が言いづらいといった意見もあり、職員間のコミュニケーションが取り切れていない面もある。職員の意見を吸い上げて組織の決定に導くことが、職員が経営への参加意識を醸成すると思われるので、さらなる一体感のある園運営を期待したい。

